

## 2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
向上心をもち、意欲的に学ぶ生徒の育成 「学力向上の推進」(保護者アンケート『工夫した授業を実施している』の肯定回答50%を目指す) ①全教科の授業時数の確保 ②学習意欲の向上を図る → ICT機器を活用し、魅力ある授業の展開 ③補充学習の充実 → 「わかった。できた」⇒「もっと知りたい」⇒「サブリとの連携」 ④家庭学習の推進

授業改善の重点
わかる授業、魅力ある授業の推進 ①「勉強がわからない、授業がわからない」という生徒の気持ちに応え、「わかる授業」を展開する。そのために教科部会の充実、ミニ研究授業などを通し授業改善を行う。 ②「もっと伸びよう、もっと向上しよう」という生徒の気持ちに応える。 ③ICT機器の活用、言語活動の推進など工夫を重ねる。 ④意欲的、計画的に研修会に参加し、指導力を高める。

	国語科	美術科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点	
各教科の指導の重点	○話し合いや発表などといった言語活動を通して多面的・多角的な思考を獲得し、主体的な学習態度につなげていく。 ○根拠をもとにして文学的文章や論説文の内容を読み取り、自分の考えを形成できるような授業の工夫を行う。	○美術の表現、鑑賞が面白いと感じるような知識、技術の習得をICT等を利用してわかりやすく指導する。 ○生徒が互いにアドバイスや意見を発表する場を積極的に設ける。 ○作品を校内に展示し、作品を鑑賞する場面を広く設ける。	○「共に生きる」を学校全体での共通テーマとし、3年間の一貫性のある計画に基づき、教科等で学んだ知識・技能を総合的・横断的に活用する学習を通して、日常生活から社会生活まで視野を広げ、主体的に生きる力を育成する。	○学校として「他者と共に生きる心」「命の大切さ」を重点化し、学校の教育活動全体を通して、人権尊重の精神に基づく豊かな心情を培い、教育目標に掲げる「たくましく生きる生徒」を育てる。	
	社会科	保健体育科			
	○多面的・多角的に思考ができるよう、ICT機器を活用し、授業の工夫を行う。 ○授業内で、できた・わかったと生徒が感じられる場面が増えるよう、質問・発問の工夫を行っていく。	○話を聞く態度を育てると共に、集団で行動することの大切さを学ばせる。 ○単元の目標を明確にし、協働の意識を高める。 ○基本的な運動能力を向上させるために毎時間の授業における運動量の確保を図る。	<th style="text-align: center;">特別活動の指導の重点</th>	特別活動の指導の重点	
	数学科	技術・家庭科			
	○習熟度別少人数授業2学級3展開において、発展クラスの授業では、中間層の生徒を伸ばすために、その生徒たちを中心に机間指導を行う。また、基礎クラスでは既習事項を丁寧に繰り返し取り組む。	<b>【技術】</b> ○題材のねらいを明確にし、製作活動に積極的に取り組む姿勢を育てる。 ○学習を通して知識を身に付けさせ、その力を作品づくりに活用させる。 <b>【家庭】</b> ○実践的・体験的学習を通して、基礎的な技術と知識を習得させる。			
	理科	外国語科			
	○ICT機器を効果的に使用し、実物等を見せることで導入などを工夫し、生徒の学習意欲を引き出す。 ○一人一台端末を活用し、実験結果のまとめや考察などの共有方法を工夫する。	○4技能(聞く、読む、話す、書く)をバランスよく伸ばすように指導し、単語力、文法力を身に付ける。 ○生徒の話す力を伸ばすために、ペアワークやグループワークを意識的に取り入れる。また、お互いの良さを認めたり、お互いの人格を尊重したりできる心を育む活動となるように努める。			
音楽科					
○音楽を楽しく表現できるための技能の習得をわかりやすく指導する。 ○生徒間で互いに協力し合い成果を出せる学習活動を行う。 ○学習の課題達成が評価につながるように学習活動を行っていく。					

	ICT機器の活用	価値ある対話の共有	振り返りの設定
本校の授業改善に向けて	・資料の提示や意見交流でクロムブックやプロジェクターを活用する。 ・キュービナを活用し自主的な学習を促したり、クラスルームを使った課題や課題の評価などを効率よく運用していく。 ・授業のなかでスライドやジャムボードを活用し、質の高い言語活動を図る。	・知識の定着を確認する質問や、多角的・多面的な思考を促す質問など、生徒の思考が深まり探求につながる発問を工夫していく。 ・発問に対して自分の考えを発表しやすいように生徒の考える時間を確保したり、ノートに書かせたりする。 ・配慮の必要な生徒にもわかるような簡潔でわかりやすい発問を工夫する。	・受容や励ましの言葉を掛け、生徒の学習活動を価値付ける(指導と評価の一体化における個人内評価の場面を設定する)。 ・自分の考えを広げたり・深めたりするための交流や、発表の場面を設定する。 ・学校生活の様々な場面で言語活動を設定する。例えば生徒が自信をもって発言する場面、しっかりと相手の考えを受け入れ質問したりする場面を設定することで言語環境を整え、認め合う・学び合う集団の形成を図る。